



## 13 SVOC(主語+動詞+目的語+補語)の文

彼は昨日その壁を白く塗った。 He painted the wall white yesterday.

「SはOをCにする」はSVOCの文で表します。O=Cが成り立つことがポイントです。この文では、「壁を白くする」なので〈paint+O+C〉をします。

👉 O(the wall)=C(white)が成り立ちます。

SVOCの文になる動詞には次の4つの型があります。

〈make + O + C〉型	OをCにする	make, get, paint など
〈keep + O + C〉型	OをCのままにする	keep, leave など
〈call + O + C〉型	OをCと呼ぶ	call, name, elect など
〈think + O + C〉型	OをCと思う	consider, believe, find など

▶ 私たちはその犬をポチと呼んでいる。 We call the dog Pochi. (the dog=Pochi)

## 14 SVOC(=分詞)の文

兄はいつも引き出しに鍵をかけている。 My brother always keeps his drawer locked.

SVOCのCを分詞で表すことがあります。O=Cの関係を結んだとき、「OがCしている」という能動の関係なら現在分詞を、「OがCされている」という受動の関係なら過去分詞にします。

👉 O(his drawer)=C(locked)が成り立ちます。

▶ 私は彼がこっそり教室に入るのを見つけた。 I found him sneaking into the classroom.

## 15 SV(=使役動詞)OCの文

母は私に毎週末部屋の掃除をさせる。 My mother makes me clean my room every weekend.

「O(人)に~させる」は、〈使役動詞+O(人)+do〉で表します。使役動詞にはmake, have, let などがありますが、それぞれ意味が異なります。

強制	強	make	(強制的に)Oに~させる
	弱	have	(Oがすべきであることを)Oに~させる、~してもらう
	弱	let	Oが~することを許す

▶ 女性はドアマンにスーツケースを運んでもらった。

The woman had the doorman carry her suitcase.

📌 ① have [get] + O(物) + 過去分詞 「O(物)を~してもらう」(使役) / 「O(物)を~される」(被害)

▶ 美容室で髪を切ってもらった。 I had [got] my hair cut at the beauty salon. (使役)

▶ スマートフォンを盗まれた。 I had [got] my smartphone stolen. (被害)

📌 ② make oneself + 過去分詞 「自分を~されるようにする」

make oneself understood (自分自身を理解してもらう), make oneself heard (自分の声を聞かせる)

## 16 SV(=知覚動詞)OCの文

私は彼が他人の悪口を言うのを聞いたことがない。 I have never heard him speak ill of others.

「O(人)が~するのを見る[聞く]」は、〈知覚動詞+O+do〉で表します。また、「O(人)が~しているのを/~されているのを見る[聞く]」は、〈知覚動詞+O+現在分詞/過去分詞〉で表します。知覚動詞には, see, watch, hear, notice, observe, feel などがあります。

▶ 私はトムが通りを歩いているのを見た。 I saw Tom walking down the street.

1. 📌 主語は「私(I)」が省略されていると考えます。「(人)に連絡を取る」は他動詞 reach を用いて SVO の文を作りましょう。「~しようとした」は〈try to do〉を用います。

英語の構造 私は/連絡を取ろうとした/あなたに/電話で/しかし/私は/できなかった

→ I tried to ( ) ( ) by telephone, but I couldn't.

◇ 「実際に電話をしてみたが、(相手が電話に出なくて連絡が)できなかった」という意味と考えれば、〈try doing〉を用います。

→ I tried calling you [tried to call you], but you didn't pick up [answer] my call.

2. 📌 「~だと提案する」は propose か suggest を用いて SVO (=that 節) の文を作りましょう。「医者を呼ぶ」は〈call a doctor〉を用います。that 節中の主語は「私たち(we)」と考えます。

英語の構造 彼女は/~を提案した/すぐに医者を呼ぶべきだ

→ She ( ) ( ) we should call a doctor right now.

◇ 提案を表す動詞の that 節中では、should が省略されることもあります。「すぐに」は 1 語で immediately でも表すことができます。

→ She suggested we call the doctor immediately.

3. 📌 「子どもたちに昔話をしやうとした」→「子どもたちに昔話をした」と考えて、〈tell+O(人)+O(物)〉の SVOO の文で表します。

英語の構造 祖父は/話した/子どもたちに/昔話を

→ My grandfather ( ) ( ) ( ) an old story.

◇ 〈tell O+to 人〉の SVO の形でも表すことができます。

→ My grandfather told an old story ( ) the children.

4. 📌 「人に~することを約束する」は〈promise+人+that SV〉で表しましょう。「二度と遅刻しない」は will never be late ですが、主節の動詞の時制 promised に合わせて would never be late となります。

英語の構造 その少年は/約束した/先生に/二度と授業に遅刻しないことを

→ The boy ( ) ( ) ( ) ( ) he would never be late for class again.

◇ 「人に~することを約束する」は、〈promise+人+to do〉でも表せます。「二度と~しない」は不定詞の前に never をつけて 〈never to do〉となります。

→ The boy promised his teacher never to be late for class again.



to は「到着点」を表し、自分が持っている物や情報をほかの人に届けるとき、for は「利益」を表し、ほかの人のために何か利益になることをしてあげるときに使われます。

Exercise B Put the following Japanese sentences into English.

Words & Phrases

1.  
ぐっすり眠ること  
A sound sleep  
A good sleep  
すっきりした  
refreshed

3.  
ゲーム  
TV game

4.  
ノックする  
knock

1. ぐっすり眠ると、すっきりしますよ。  
(東洋大改) → 13

---



---



---

2. 彼女は車のドアの鍵をかけ忘れたままにしていた。  
(龍谷大改) → 14

---



---



---

3. 両親は私に1日1時間だけゲームをやらせてくれる。  
(成蹊大改) → 15

---



---



---

4. 昨夜遅くに、誰かがドアをノックするのが聞こえた。  
(京都産業大改) → 16

---



---



---



「I saw Bill enter the room.」の知覚動詞や、「John made me go there.」の使役動詞では、なぜ enter や go は動詞の原形になるのですか？

1. ♣ 「ぐっすり眠る」→「健全な睡眠」と考えて、無生物 A sound[good]sleep を主語にします。「ぐっすり眠ることがあなたをすっきりさせる」と考えて、「OをCにする」(make+O+C)の形で表します。

英語の構造 ぐっすり眠ることは／～にします／あなたを／すっきりした

→ A sound sleep will ( ) ( ) ( ).

◇ 「ぐっすり眠ると」は if を用いて、条件を表す副詞節で表すこともできます。(→ 17・18)

→ If you sleep well, you will feel better.

2. ♣ 「車のドアの鍵をかけ忘れたままにする」→「車のドアの鍵がかけられていないままにしている」と考えて、「OをCのままにする」(leave+O+C)で表します。(the door of her car = unlocked)となります。

英語の構造 彼女は／～のままにしていた／車のドアを／鍵がかけられていない状態に

→ She ( ) the door of her car ( ).

◇ 「～するのを忘れる」(forget to do)でも表すことができます。

→ She forgot to lock the door(s) of her car.

3. ♣ 「両親は私にゲームをやらせてくれる」→「両親は私がゲームをするのを許す」と考えて、「Oが～するのを許す」という意味の使役動詞 let を用いて (let+O(人)+do)で表します。

英語の構造 両親は／～を許します／私に／ゲームをすること／1日1時間だけ

→ My parents ( ) ( ) ( ) TV games for just an hour a day.

◇ 「O(人)が～するのを許す」は (allow O to do)でも表すことができます。

→ My parents allow me to play video games for just one hour per day.

4. ♣ ノックの音を聞いたのは「私」と考えます。「Oが～するのを聞く」は知覚動詞 hear を用いて (hear+O+do)で表します。

英語の構造 私は／～を聞いた／誰かがドアをノックする／昨夜遅くに

→ I ( ) ( ) ( ) on the door late last night.

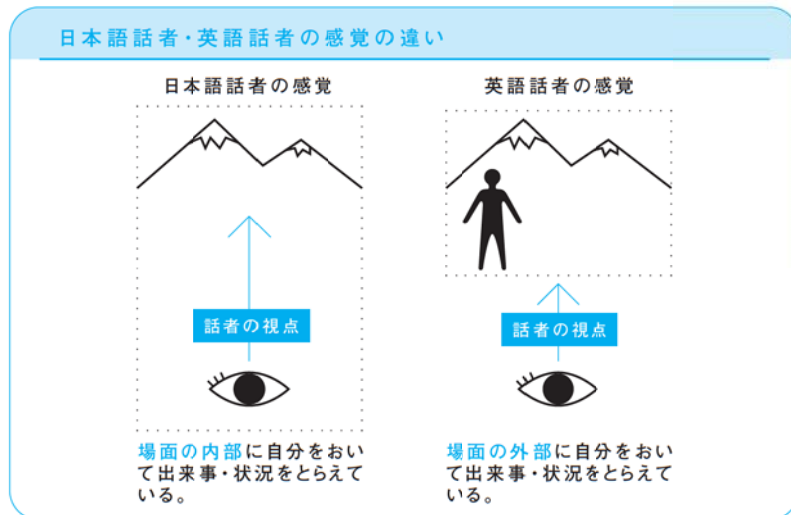


saw と enter, made と go が同時だからです。たとえば (I asked Mary to visit Bill.) という文では、ask した後に visit するため、時間のずれがあるので、to 不定詞で表します。

## 英語話者の出来事・状況のとらえ方

日本語話者と英語話者では、見えているものが同じでも表現の仕方が異なります。日本語話者は見えているまま出来事・状況を表すのに対して、英語話者は見ている自分を含めて、その場面の外から見ている感覚で出来事・状況全体を表します。たとえば、旅行に行って列車の窓から山が見えている状況では、日本語と英語では以下のように表されます。

日本語 山が見える。 ← 主語である私の視点から山が見えているという状況。  
英語 I see a mountain. ← 「私が山を見ている」という状況の描写。



英語の感覚を身に付ける第一歩は、頭の中に自分を浮かべて、その自分の状況を説明する感じで話したり、書いたりすることです。この感覚が身に付けば、次の日本語に対応する英語を表すこともできるようになります。

- ここはどこですか。 Where am I?  
→ 自分がどこにいるかわかっていない、という状況を描写している。
- (ここには)誰もいません。 Nobody is here except me.  
→ 自分を除いて誰もここにはいない、という状況を描写している。

## 英語の表現パターン

英語話者は場面の外部に自分を置いて、出来事・状況の全体を表すため、「誰が(何に)何をする」という主語と動詞を必要とする認識パターンを頭の中に持っています。また、動作の対象がある場合には目的語を必要とすることから、自然と下の図1のような表現パターンを頭の中に持っています。このため、英語の基本形はSVOなのです。



### 無生物主語が自然な英語表現をつくる

英語話者は動作をするほうに意識を向けて発信をするので、「影響を与える出来事」を名詞にした無生物主語の表現がよく用いられます。(→ 3・4) 上の図1の主語に人や動物ではない無生物を、目的語に人を当てはめ、「物事が人に～させる」という意味を表します。

- ひどい雨が降ったので私たちは外出できなかった。  
Heavy rain prevented me from going out.



## ■ SSCC とは

SSCC とは **Simultaneous Self Check Composition** (同時自己添削英作文) の略称です。読み上げる日本語を聞きながらライティングを行い、提示された解答と自分の答案を照会し、自己添削する英作文トレーニングの手法です。

## ■ SSCC を利用した授業

実際の授業では、教師が日本語を読み上げながら黒板に模範解答を記し、生徒は机に向かって日本語を聞きながらライティングを行います。書き終えたときに教師が提示した模範解答と自分の答案とを照らし合わせ、どう違うのかを考えて添削を行います。別解や疑問点をその場でやりとりすることで、一対多でのアクティブな添削活動を行うことができます。授業事例は以下の通りです。

項目	学習活動と展開	留意点
導入 (10分)	Exercise A の答え合わせを行いながら、Target Sentences 解説中の重要事項について説明を行う。	宿題として例文解説を読んだうえで、Exercise A に取り組ませてくる。
展開 (35分)	Exercise A 問題を SSCC で行う。(復習) SSCC で書かせた英文を繰り返し発話させ、定着させる。 <b>活動例</b> ・ラインゲームで A-1 を 1 語ずつ答えさせる。 ・A-2 の解答を提示し、消していきながら暗唱させる。 Exercise B 問題を SSCC で行う。(実践) ・解説と対応する重要事項の説明を行う。	その日の生徒の様子にあわせてアクティビティの量や負荷を調整して行う。
まとめ (5分)	学習した英文をペアワークで確認させる。 A: 日本語を読み上げる。 B: 対応する英語を発話する。	長い文にはスラッシュを設け、区切りごとに発話させてもよい。

## ■ SSCC Training Standard / Advanced の利用法

SSCC Training — Standard では、音声 CD(Track 24-44) を用いて、各レッスンで学んだ基本例文、類例、Exercise A から、5 問分の音声を読み上げられます。読み上げられる音声を聞きながら、それぞれの音声 が 2 回繰り返されるうちに、英文を書きます。英文が正しく書けているか、各レッスンの解説や解答を見て自己添削し、重要事項を確認して定着をはかりましょう。空いている行には添削結果や重要事項を書き込みましょう。

SSCC Training — Advanced では、p.4 の QR コードからダウンロード可能な音声を用いて、付属のデータ ROM 収録の問題・解答を利用し、実際の入試問題で SSCC の実践を行います。SSCC で書き上げた英文を繰り返し学習することで、基本的な英作文の表現や、自由英作文の型を学ぶことができます。